

2015年8月25日

日本イーライリリー株式会社

〒651-0086
神戸市中央区磯上通 7-1-5
www.lilly.co.jp

EL15-37

経口薬のみで治療中の、働く2型糖尿病患者さんに対する意識調査

働きながら糖尿病治療を続けるポイントは、 『薬の効果の実感』と、『外出中の服薬がない』こと

日本イーライリリー株式会社(本社:兵庫県神戸市、代表執行役社長:パトリック・ジョンソン、以下「日本イーライリリー」)は、フルタイム勤務で、複数の経口薬のみで治療を続けている、40~50代の2型糖尿病患者さん 390名を対象に意識調査を実施しました。

調査の結果、働き盛りの糖尿病患者さんは、忙しさや不規則な生活により必ずしも指示通り服薬できていないことが明らかになりました。また、ライフスタイルに合わせた治療を望んでおり、忙しい中で、外出先での服薬をなくしたり、服薬回数の多さを考慮することが、治療を続けるポイントと考えていることが分かりました。

【主な結果】

- ◆ 働きながら治療を続ける患者さんは、「外出先に持っていき忘れ」たり「食事が不規則、一食抜いてしまう」などの理由で、指示通り服薬できている患者さんは44.9%。飲めないタイミングで一番多いのは「平日の夕食後」。服薬回数が多い患者さんほど、きちんと飲めている割合が低くなる。
- ◆ 自身のライフスタイルに合った治療を9割以上が望んでいるにも関わらず、6割以上が医師に相談したことがない。相談しない理由としては、「薬の量や飲む回数が多いのは仕方がない」が一番多く(47.6%)、服薬回数が多い患者さんほどそう思っている割合が高い。
- ◆ 注射に対する抵抗感は8割と高く、医師から提案されたことがある患者さんは、1割という現状。働きながら糖尿病治療を続けるポイントは、「効果が実感できる薬である」(54.9%)、「外出中に薬を飲んだり注射したりする必要がない」(52.1%)「薬の回数が少ない」(44.4%)

日本における糖尿病患者は予備軍を含め 2,050 万人と推計され^{※1}、中でも男性の発症率が高く、60 歳未満の有病者・予備軍男性は約 4 割^{※1}と、働き盛りの糖尿病患者さんは多く存在します。また、新しい治療薬が次々に登場し、治療薬の組み合わせも多岐にわたっています。(※1)厚生労働省:平成 24 年 国民健康・栄養調査。

このような状況から、今回は糖尿病患者さんのうち 9 割以上を占める 2 型糖尿病患者さんの中で、フルタイムで働きながら、複数の経口薬のみで治療に取り組む患者さんを対象に意識調査を行いました。本調査は、2015 年 7 月 28 日~30 日にインターネットで実施したものです。

【結果抜粋】

服薬の遵守状況と原因について

- ・ 医師から処方されている薬を指示通り「きちんと飲んでいる」患者さんは、44.9%
- ・ 1 日の服薬回数が多い患者さんほど、きちんと飲んでいる率が低い(1 日 1 回 59.2%、2 回 44.0%、3 回以上 41.9%)

- ・ 飲めないタイミングで最も多いのは「平日の夕食後」(28.8%)
- ・ 指示通り飲めない理由は、①外出先に持っていき忘れる(57.2%)、②食事が不規則だったり一食抜いてしまう(42.8%)、③忙しくて飲み忘れてしまうことがある(33.5%)
- ・ 血糖値の目標を「達成できている」患者さんは 10%、「まあまあ達成できている」患者さんを含めても 42.3%

治療への積極的参加意識について

- ・ 自身の生活状況や生活スタイルに合った治療を望んでいる患者さんは 93.6%
- ・ 実際に自分に合った治療について医師に相談したことがある患者さんは、37.8%。1日の服薬回数が多い患者さんほど医師に相談せず
(相談経験のある患者さんの服薬回数による割合は、1日1回: 42.9%、2回: 40.7%、3回以上: 34.4%)
- ・ 相談しない理由として「薬の量や飲む回数が多いのは仕方がないから」が 47.6%と最も多く、服薬回数が多い患者さんほど「仕方がない」と思っている
(「仕方がない」と回答した患者さんの服薬回数による割合は、1日1回: 25.0%、2回: 45.8%、3回: 53.3%)

今後の治療について

- ・ 注射薬に対して抵抗感がある患者さんは 81.2%。医師から注射薬を提案されたことがある患者さんは 10.5%
- ・ 注射薬に抵抗がある理由は、①面倒そう(62.8%)、②重症な感じがする(56.8%)、③忙しい生活の中で飲み薬との両立が難しそう(42.3%)
- ・ 薬を追加すると仮定して、「飲み薬の追加」と「週1回の注射薬の追加」であれば、87.2%が「飲み薬の追加」の方が治療を継続できそうと回答
- ・ 働きながら糖尿病治療を継続していくポイントは、①効果が実感できる薬である(54.9%)、②外出中に薬を飲んだり注射したりする必要がない(52.1%)、③薬の回数が少ない(44.4%)

今回の調査結果から、働き盛りのフルタイム勤務の2型糖尿病患者さんは、外出先に持っていき忘れたり、食事が不規則で、指示通りに処方された薬をのめている患者さんは半数以下でした。また半数以上の患者さんが目標血糖値の達成ができていないことが明らかになりました。さらに、自身の生活状況や生活スタイルに合った治療を望んでいるものの、服薬の量や回数に関しては「仕方がない」と思っており、相談まで至らないことが多いことが分かりました。

注射に対する抵抗感は依然高く、医師から提案されたことがある患者さんも1割程度でしたが、働きながら糖尿病治療を続けるには、「効果が実感できる薬である」、「外出中に薬を飲んだり注射したりする必要がない」こと、「薬の回数が少ない」ことがポイントであると回答していることから、今後の治療については、服薬の回数やタイミングなどを相談し、働きながらもQOLを向上できるような治療を医療従事者と患者さんとコミュニケーションをとり、進めていくことが期待されます。

【調査概要】

調査目的 : 働きながら2型糖尿病治療を続ける患者さんの現状と治療の課題を明らかにする
 調査対象 : 複数の経口薬のみで糖尿病治療をしている40歳～59歳のフルタイム勤務の2型糖尿病患者さん
 調査地域 : 全国
 調査手法 : インターネット調査(実査は株式会社インテージに委託)
 有効回答数 : 390名(経口薬2剤服薬130名、3剤服薬130名、4剤以上服薬130名)
 調査時期 : 2015年7月28日～7月30日

【対象患者さんの背景】

性別	男性	女性	合計	年齢	40代	50代	合計
	374名	16名	390名		141名	249名	390名

1日の薬の服薬回数	1日1回	1日2回	1日3回以上	合計
	49名	150名	191名	390名

※服薬回数の定義: 糖尿病治療において処方された全ての薬を1日に飲む回数
 (例)朝食前と朝食後に服薬の場合2回とカウント、2種類を朝食後にまとめて服薬の場合、1回とカウント

【調査結果】

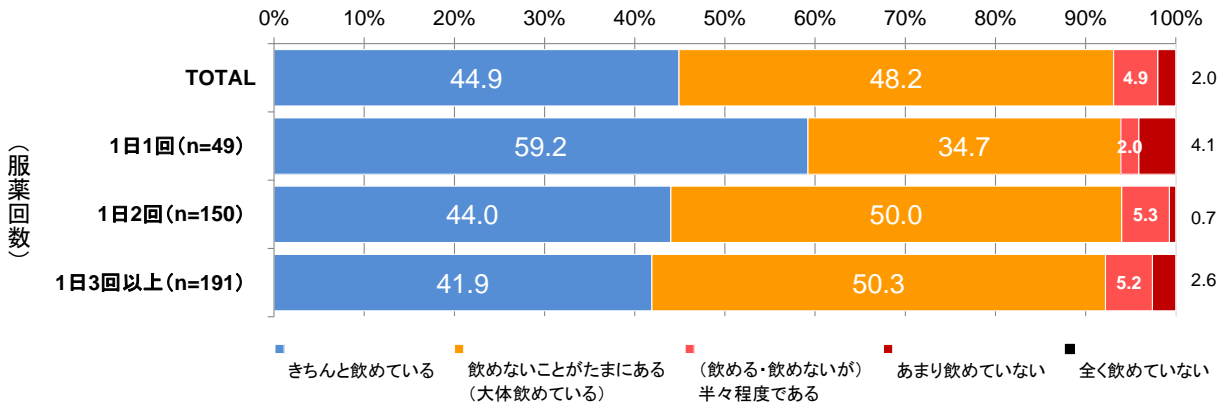
◀ 服薬の遵守状況 ▶

※服薬回数の定義：糖尿病治療において処方された全ての薬を1日に飲む回数

例)：朝食前と朝食後に服薬の場合2回とカウント。2種類を朝食後にまとめて服薬の場合、1回とカウント

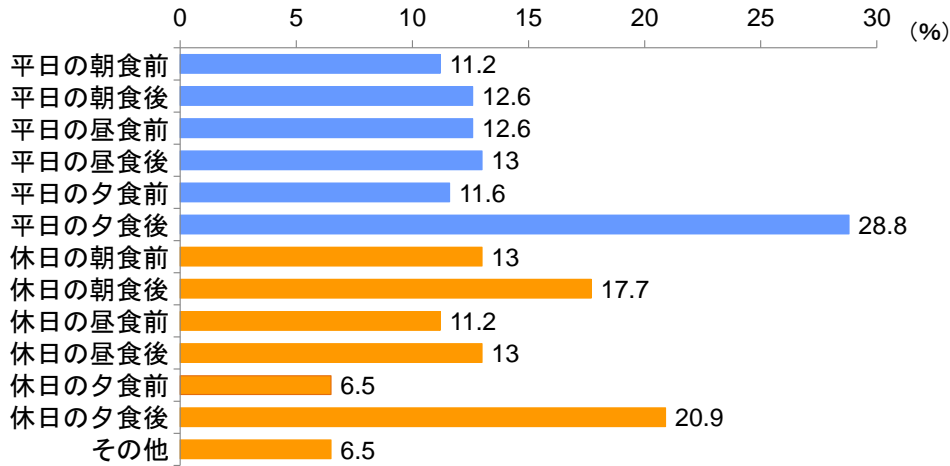
■ 指示通り服薬できている患者さんは44.9%。1日の服薬回数が多い患者さんほどきちんと飲んでいない

Q. あなたは現在医師から処方されている全ての薬を、先生の指示通り(回数、錠数、服薬時間(朝/昼/晩など)きちんと飲むことができますか？(n=390)



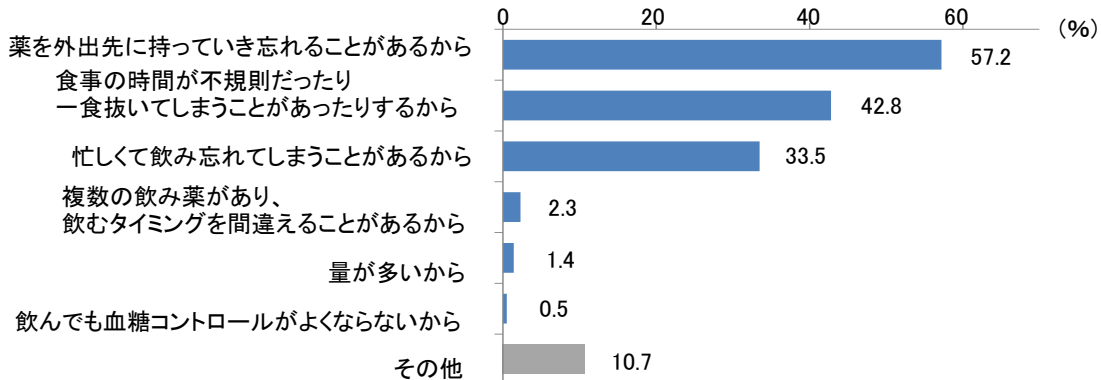
■ 指示通り服薬できないタイミングで最も多いのは「平日の夕食後」

Q. どのタイミングで飲めないことが多いですか？(複数回答、上記で飲めないことがあるとした回答者(n=215))



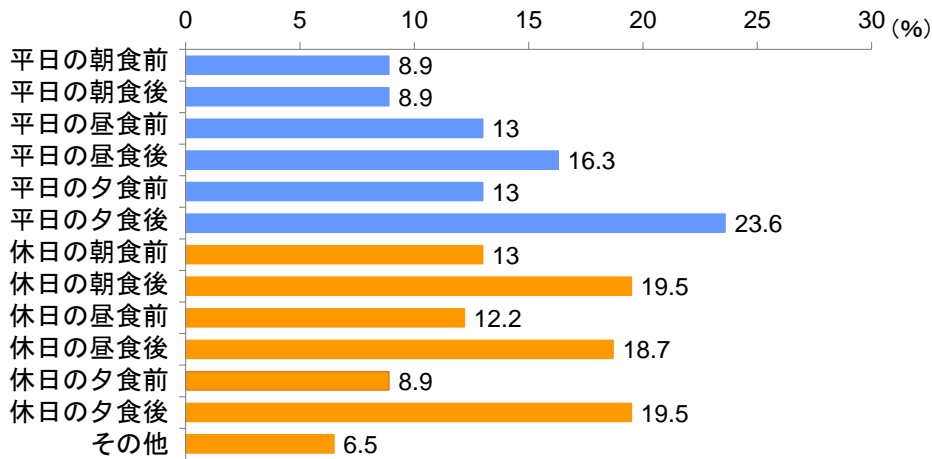
■ 飲めない理由は、「外出先に持っていき忘れる」、「食事の時間が不規則だったり、一食抜いてしまう」

Q. 飲めない理由として当てはまるものを選んで下さい。(複数回答、上記で飲めないことがあるとした回答者(n=215))



■薬を「外出先にもって行き忘れる」と回答した患者さんは、服薬できないタイミングは平日夕食後だけではなく、
生活スタイルによって様々なタイミングで服薬できていない

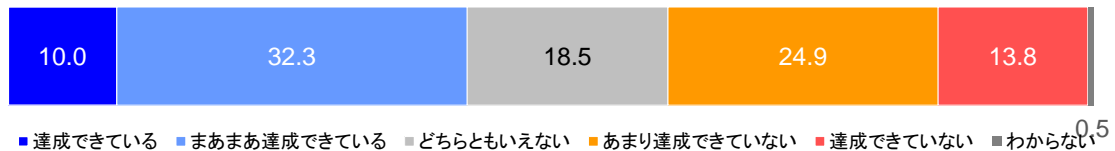
※ 前頁の質問で「薬を外出先に持っていき忘れる」と回答した患者さん(n=123)の飲めないタイミング



■ 血糖値の目標を達成できている患者さんは1割。「まあまあ達成できている」患者さんを含めても半数以下

Q. あなたは、医師から目標といわれている血糖値を達成できていますか？ (n=390)

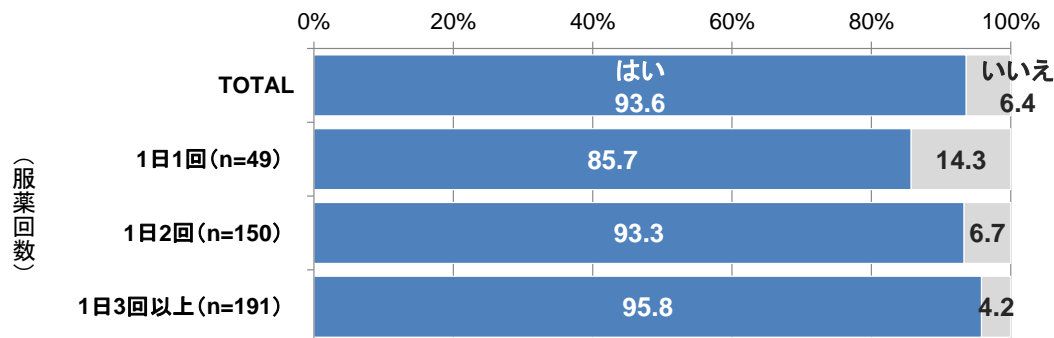
(%)



《 治療への積極的参加意識 》

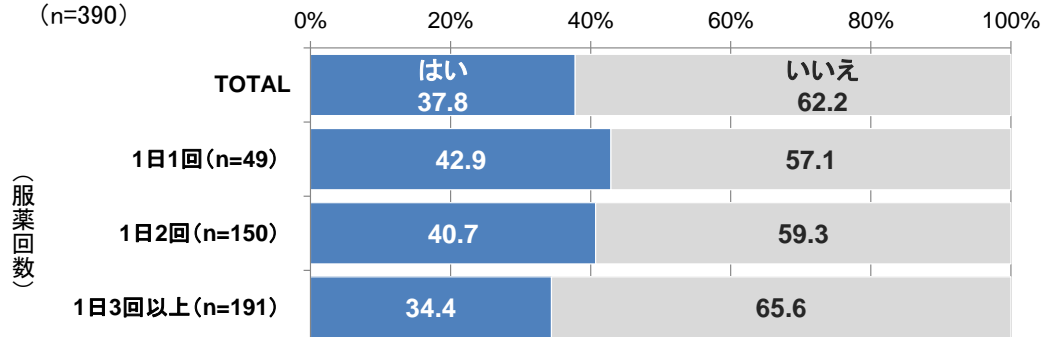
■ 生活スタイルに合った治療を望んでいる患者さんが大多数。服薬回数が多い患者さんほど顕著

Q. ご自身の生活状況や生活スタイルにあった糖尿病治療があつたらいいな、と思いますか？ (n=390)



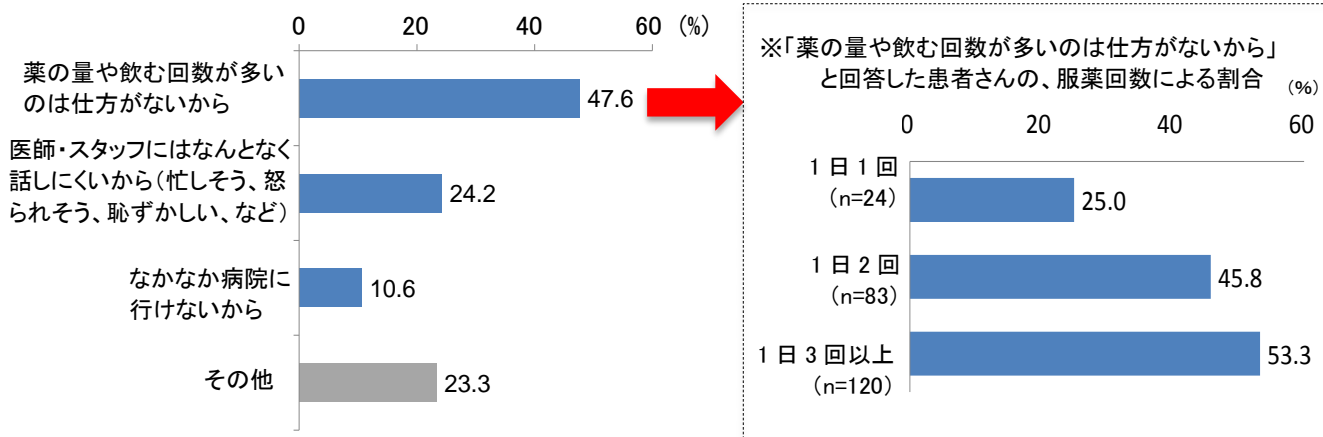
■ 生活スタイルに合った治療を医師に相談したことがある患者さんは4割弱。1日の服薬回数が多いほど相談していない

Q. ご自身の生活状況や生活スタイルにあった糖尿病治療について医師に話したり、相談したことがありますか？ (n=390)



■ 医師に相談しない理由として、“服薬量や回数が多いのは仕方がない”とあきらめている患者さんが最も多い

Q. ご自身の生活状況や生活スタイルに合った糖尿病治療について医師に相談をしていない理由は何ですか？
 (複数回答、上記で相談したことがないと回答した患者さん(n=227))



《 今後の治療について 》

■ 医師から注射薬の提案を受けた患者さんは1割である一方、注射薬への抵抗を感じている患者さんは8割にのぼる

Q. 医師から注射薬の使用を提案されたことはありますか？(n=390)

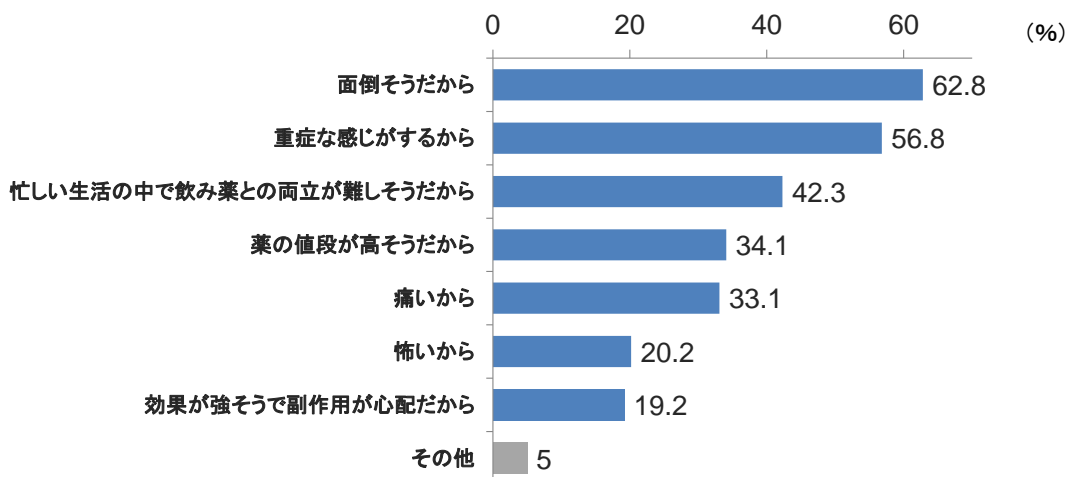


Q. 糖尿病治療において、注射に対する抵抗感がありますか？(n=390)



■ 注射に抵抗のある患者さんの理由は、①面倒そう、②重症そうな感じがする、③忙しい生活の中で飲み薬との両立が難しそう

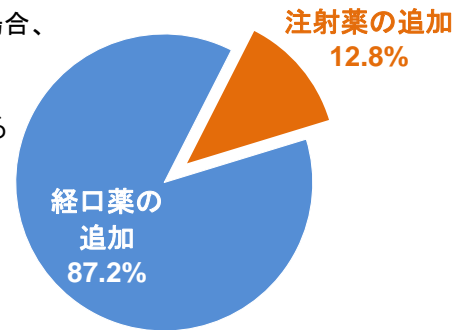
Q. 注射に抵抗感を感じるとした理由は何ですか？(複数回答、上記で抵抗感を感じるとした回答者 n=317)



■ より良い血糖コントロールのために薬を追加する場合、週1回の注射薬の追加を選んだ患者さんは 12.8%、経口薬の追加を選んだ患者さんは 87.2%

Q. より良い血糖コントロールのために、下記のような勧めが医師からあった場合、どちらの方が治療を継続できそうですか？(n=390)

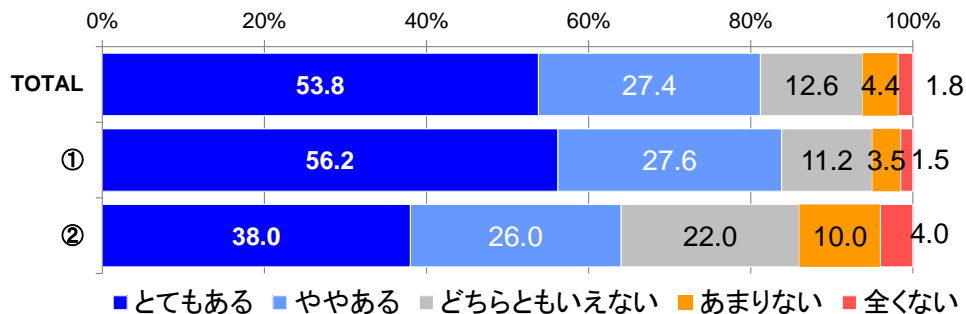
- ① 現在より飲む回数が増えるが、治療効果の高い飲み薬を追加で服用する
- ② 現在飲んでいる薬の回数は変えずに、治療効果の高い週1回だけの注射薬を追加する



■ 「注射薬の追加」を選んだ患者さんの方が、「注射に対する抵抗感が低い」

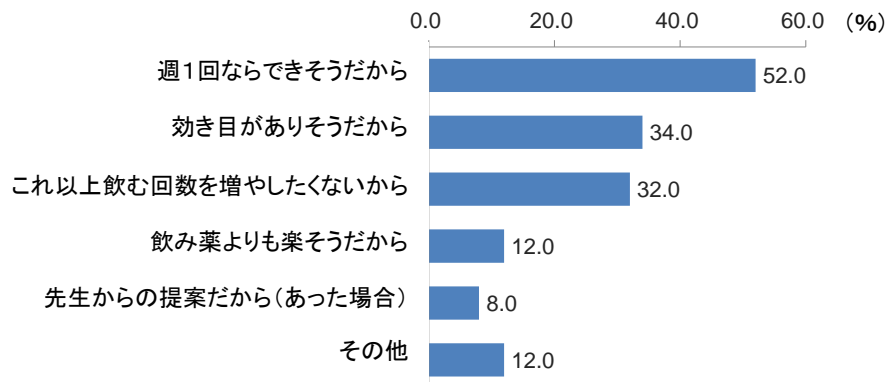
※上記質問の「より良い血糖コントロールのために、①、②どちらの方が治療を継続できそうか」の回答別の、糖尿病治療における注射に対する抵抗感の割合

- ① 現在より飲む回数が増えるが、治療効果の高い飲み薬を追加で服用する
- ② 現在飲んでいる薬の回数は変えずに、治療効果の高い週1回だけの注射薬を追加する



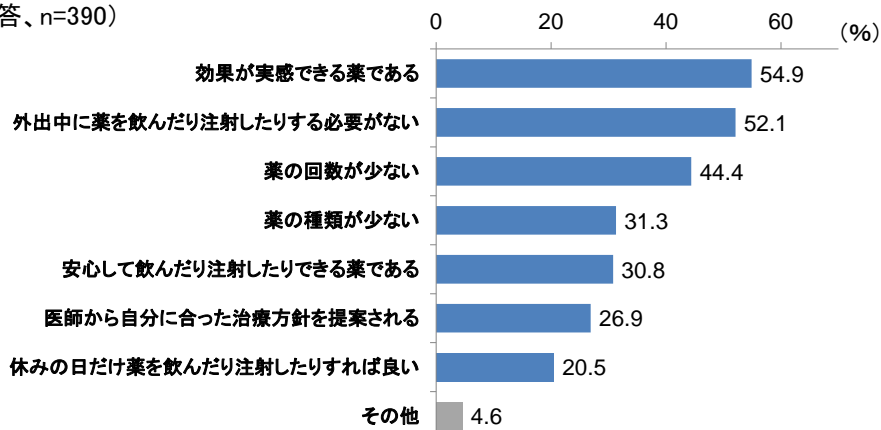
■ 注射薬の追加に前向きな理由は、「週1回ならできそうだから」

Q. 注射薬の追加を選んだ理由はどのようなことですか？(複数回答、前問で②注射薬の追加を選んだ回答者 n=50)



■働きながら糖尿病治療を続けるポイントは①効果が実感できる薬、②外出中の服薬が不要、③少ない服薬回数

Q. 働きながら糖尿病治療をするにあたり、どのようなことが継続していけるポイントだと考えますか？
(複数回答、n=390)



以上

イーライリリー・アンド・カンパニーの糖尿病事業について

イーライリリー・アンド・カンパニーは 1923 年に世界で初めてインスリン製剤を開発して以来、糖尿病ケアの分野において常に世界をリードしてきました。現在も、糖尿病患者さんやケアを行う人々の様々なニーズに応えることで、この伝統を築いています。研究開発や事業提携、拡大し続ける幅広い医薬品ポートフォリオ、そして、医薬品からサポートプログラムをはじめとする実質的なソリューションを提供し続けることを通じて、世界中の糖尿病患者さんの生活の改善に努めます。

日本イーライリリー株式会社について

日本イーライリリー株式会社は、イーライリリー・アンド・カンパニーの子会社で、本年設立 40 周年を迎えます。人々がより長く、より健康で、充実した生活を実現できるよう革新的な医薬品の開発・製造・輸入・販売を通じて日本の医療に貢献しています。統合失調症、うつ、双極性障害、注意欠如・多動症(AD/HD)、がん(非小細胞肺癌、膵がん、胆道がん、悪性胸膜中皮腫、尿路上皮がん、乳がん、卵巣がん、悪性リンパ腫、胃がん)、糖尿病、成長障害、骨粗鬆症などの治療薬を提供しています。また、アルツハイマー型認知症、関節リウマチ、乾癬、高コレステロール血症などの診断薬・治療薬の開発を行っています。詳細はホームページをご覧ください。http://www.lilly.co.jp

【本件に関するお問い合わせ先】

日本イーライリリー株式会社 広報・CSR 部
小宮山 みづき TEL:03-5574-9257 / MAIL: komiya_mizuki@lilly.com

〈このプレスリリースは、重工業研究会、厚生労働記者会、厚生日比谷クラブ、本町記者会、道修町薬業記者クラブへ配付しております〉